



市民講座を開催しました

6月30日(日)、信州の幸あ^{めぐみ}んずホールにおいて、NHKでおなじみの気象予報士^{ひらい のぶゆき} 平井信行さんを講師にお迎えし「気象・防災情報の見方と使い方～気象災害から命を守るために～」と題して、市民講座を開催しました。367人の参加がありました。

特集 平和への思い

《主な掲載記事》

各館の活動報告	2～3
特集 平和への思い	4～7
もっと知りたいふるさと	8
(戸倉地区)	

<お知らせ>

短詩型文学祭の作品募集
成人式のお知らせ
文化祭のお知らせ

各館の活動報告

屋代公民館
白樺リゾートウォー
キング講座に参加して
倉科 高木 俊雄

6月21日（金）、ゆうゆう学級の市外研修に参加しました。松本大学大学院健康科学研究科の根本健一先生から、「健康寿命を伸ばすには体力の維持増加が大切」「メッツ（MET）という身体活動の強度を意識した運動が必要」との内容の座学を受講後、室内でできる筋トレの体験をしました。



根本先生の厳しくも温かいご指導を受けています

体の部位の重さを利用した、腕・背中・ふくらはぎ・太ももの筋肉をトレーニングする方法について、ユーモア溢れる先生とサポートする学生の皆さんからみっちり指導を受け、参加者一同体力を振り絞りました。器具を使わ



腕の重さを利用して筋トレをしています

なくても日常的に自宅で十分に筋トレできることを体験し、とても有意義な時間を過ごしました。よい汗をかいた後は、運動量にあった栄養が管理計算されたランチを美味しくいただきました。

ナにて行われました。今大会は、男女混合ソフトバレーボール大会ということ。今までは一味違った試合展開に悪戦苦闘。しかし、荒町はチームワークの良さを発揮し予選通過。準決勝は対上八日町。1セット先取されるも、皆で声を掛け合い逆転勝利！そして、ついに決勝。若さと勢いのある中町との対戦になりました。高さ、そしてパワーも兼ね備えた相手に1セット先取され、準決勝に続きました。でも崖っぷちに立たされ、チームは満身創痍。控えのメンバーの応援にも熱が入り、それに応えるコート上の選手たち。まさにチーム一丸となり全力を尽くした結果、見事に逆転勝利を収め連覇達成をすることができました。



手に汗握る準決勝

八幡公民館
新たな発見！

5月30日（木）、市内研修で森將軍塚古墳館、森將軍塚古墳、あんずの里アグリパークを訪問しました。



いいお天気！古墳の頂上にてパチリ

優勝 荒町分館
準優勝 中町分館
3位 上八日町分館
新田分館



優勝した荒町分館のみなさん

この研修は、意外と知らない千曲市のことをもっと知るための講座として開催しています。森將軍塚古墳館では、館長さんによる館内の案内と説明により、古墳時代の住民の生活を知ることができました。その後、バスにて森將軍塚古墳まで上り、長野県最大規模の全長約100mの前方後円墳を見学しました。当日は晴天で、北アルプスが眺望できました。この場所は、夕日の景観が美しいことから、長野県のサンセットポイントにも選ばれています。アグリパークでは、職員の方に指導していただきながら、花の寄せ植え体験をし、楽しい時間を過ごしました。今回の市内研修で、普段は「行かない場所」「知らない場所」を訪問して、新しい発見があったと思います。



花の寄せ植え体験（アグリパーク）

埴生公民館
選手宣誓

杭瀬下 市川 弘一

「宣誓、我々選手一同は埴生地区球技大会において、老いも若きも男も女も、地域住民とふれあいながら、だけど勝ち負けには非常にこだわらず、正々堂々と戦うことを誓います！」

5月19日（日）、埴生地区球技大会が開催されました。埴生地区は8つの分館があり、野球は勝っても負けても2つずつ試合ができるので心地よい疲労感が味わえます。小中学校では同じチーム



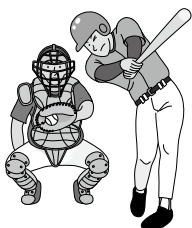
元気な選手宣誓でスタート！

合中はピリピリしていても終わった後はとても清々しい気持ちになります。地域の触れ合いが薄くなってきた昨今、この公民館行事である球技大会を通じて地域の輪を広げ、絆を深めて行けたら良いなと、その願いを込めて選手宣誓をいたしました。



ねらいを定めて目指せホールインワン！

○野球Aブロック
優勝 鋳物師屋分館
準優勝 打沢分館
○野球Bブロック
優勝 小島分館
準優勝 杭瀬下分館
○マレットゴルフ
優勝 杭瀬下分館
準優勝 鋳物師屋分館
3位 新田分館



戸倉公民館
「親子de味噌をつくらう」に参加して
戸倉 平塚 美香

実は私、かつて味噌屋に勤めていました。手作業のところもありましたが、ほとんどが機械作業。販売や袋詰めを担当していたので、どこかで機会があれば子どもと一緒に体験に行きたいと思っていたところ、5月26日（日）ようやく実現しました。

普段からよく食べているのに作り方（茹でた大豆をすり潰し、麴や塩を混ぜ合わせ、味噌玉を作る工程）や材料を意外と知らないことに気づかれました。当日、子どもは粘土遊びの感覚でペタペタと半分は遊びのように楽しんで、和気あいあいとした味噌作りでした。大豆を潰す作業が特に大変で、ビニール袋に穴をあけてしまい、わちゃわちゃしていたら、「まめの会



作業の前に先生の説明を聞きました

上山田公民館
5年ぶりの開催
八坂 高野 浩一

6月9日（日）、第45回支分館親善ソフトボール大会が実施されました。去年は雨で中止となつてしまいましたが、5年前、私も選手として参加させていただきましたがその大会では優勝することができました。しかしながら大分年月が経ってしまったように動くのか

きました。この作業がとても大切で、ものすごい体力を消耗しました。一生懸命作った味噌なので、絶対に美味しいと思います。味噌作りを体験しながら子どもの成長している姿を見ることができました。早く食べたい！とはやる気持ちを抑え、数カ月待ちたいと思います。



ゆでた豆をつぶす準備をしています

とても心配でした。八坂分館は初戦、準決勝と勝ち上がり決勝戦では三本木分館との激戦でサヨナラ勝ちという形で制し見事二連覇を達成できました。久しぶりに他の支分館の方々と楽しく交流ができたと思います。また、自分の娘、息子の同級生なども参加していてとても感慨深いものがありました。また来年も元気に変わらなくお会いしましょう。各支分館、選手、役員のみなさん大変お疲れ様でした。楽しい時間をありがとうございました。



開会式に集まったみなさんです



熱戦を繰り広げています

特集 平和への思い



「公民館報ちくま」では、平成22年から毎年8月に『語り継ぎたいわたしの戦争体験』の特集を組み、従軍の経験や当時の生活の様子など、数々の貴重な原稿をお寄せいただき、掲載してきました。

戦争の体験を直接語れる方が少なくなっている中、戦争を知らない世代からの願いも含めて、様々な世代で「平和への思い」を共有して、次の時代に語り継いでいただければ幸いです。

戦争に行った

二人の先生

内川 南澤 公子

私は今春卒寿を迎えました。丈夫でここまで来られたことに感謝です。小学校2年の時戦争がはじまり6年の時に終わりました。戦争だから食べ物がなく遊ぶこともできないんだと思っただけではありません。戦争ってどこでどんなことをやっているんだろ程度に関心でしたから。

家は農家で田畑が沢山あり姉妹は小さい時から畑へ行くのは当たり前、桑畑に豆を蒔いたり桑束を背負いで運ぶのが仕事でした。父親は数年病んで体を動かすことができません。父に代わって祖父が家族を支えてきました。子どもは遊ぶことよりも家の仕事を手伝わねばという気持ちで身につけていました。

小学校2年になった時、長野野師範学校を卒業した若い先

生がきました。当時師範学校を出た先生は僅かで1校に2、3人いるかどうかでした。村の人たちからも期待され、私たちも何かいいことがあるような思いでした。

岩間睦男先生といっって伊那の方の出身でした。学校周辺には下宿がなく、歩いて10分程の瓦屋さんの2階に居を据えました。背が高く黒縁の眼鏡をかけ、走るのが速いんです。休み時間になると、中庭に出てドッチボールを教えてくれました。面白くて面白くて皆必死でした。先生は力があって強い球を投げるんです。当たらないように逃げたり、よし今度は捕ってみるか！と元氣を出す人が出てきました。組中が飛びついて遊ぶことを覚えました。

先生はカメラも持っていました。「おーい、明日は日曜だから学校へ遊びに来られる者は来いよ。写真撮ってやるからな」と。8時半ということでしたが、神科村は学校を

もう1人は中学3年の時担任になった先生です。復員兵士でした。どこで戦ったかは聞いていません。日本人は皆貧しく、一日一日を暮らしていくのがやっとだった戦後3年目でした。

井出哲先生。大正10年生まれ。私と同じ神科村の出身です。東大の経済学部を出て、八幡製鉄に勤めたけれど召集令状がきてしまったというエリートでした。復員して生家に戻ったが職はない。先生でもやるか！果たして教職の免許はもっていたのでしょうか？中3の時は社会と英語を教わりました。中高一貫制でしたので、高校では一般社会だけでした。彼は私たちが高3になる時にわずか3年間で教職を去り上京しました。

井出先生は図書館の係になり国語科の先生と毎日図書整理をしていました。生徒にも手伝ってほしいと言われ放課後何人かが図書館通いをしました。

「マルクス、エンゲルスは先ず読め！」とわからなくとも皆目を通しましたね。当時の中高生は大部分の人がこの本に興味を持ちました。彼が一番勧めたのは『きけわだつみのこえ』でした。「これはな、つい最近入ったばかりなんだよ」と言っって「自分と同

じ年頃の人間が学徒出陣していったんだ」と熱を込めるんです。皆に知ってもらいたい、あるいは訴えたいという気持ちだったのでしょうか。私はこの時初めて本の名前を知りました。それからカントやヘーゲルの哲学も教えてくれました。戦中発禁だった人生論ノート等はどうも出版され、図書館にも入ってきました。代表作が三木清の『人生論ノート』でした。彼が発する「悪貨は良貨を駆逐する」という経済の話も総て耳新しいものでした。驟雨の如く押し寄せる未知の世界。先生から話を聴くという名目で同窓会館の小室を借り「共に語る会」を設立したのもこの時でした。

この頃になって私は初めて「戦争」を実感するようになりました。広島や長崎・沖縄のような痛手はないものの戦後のやつれきった国の様をいやというほど味わいました。「家は焼けない、命は残っている、国家のありようは全滅でも何とかなる！」若い人が一人一人勉強して、国の力を引き上げるしかない。戦中学べなかった生徒が干からびた喉を潤すように我先にと私たちは色々な本を読み漁ったのです。

担任の先生が戦争に行った



小学生のころの私（後ろから2列目右端）
近所の友達と

真中にして一里級（遠く離れている意味）の集落が大部分で上小地方では一番大きな村でした。結局集まったのは私の集落の3人だけでした。学校に一番近いからです。「土手の桜の木の下がいいかな？」と道側の堤防を一回りし、太い幹に先生が真中にしゃがみ3人が寄り集まった格好でした。写真機等を持っている人はいないので撮ってもらえる嬉しさにわくわくでした。写真を撮ってもらうと

広い校庭を4人で走り回りしました。記念写真以外の日常写真なんて1枚もない私は大事大事にして時々見ていました。それが一体どこへいつてしまったのでしょうか？紛失？どこかの記事に載せてしまったのでしょうか？

3年生になった時、組替えがありました。男組、女組、男女組にと。私は女組になり岩間先生は男女組の担任になりました。先生は5年生になって少し経つと召集されました。ニューギニアへ行っったというのです。「戦地へ行っった！」と隣の組の人たちがわめいていました。「慰問文を書きたい人は持つて来なさい」と、男組担任からの伝言がありました。私は校舎の板壁の下に座り込んで書きました。「本当に戦地へ行っったのかな？」「戦地ってどんな所だろう？」現代のように詳しい報道はないので幼い想像の世界でした。

岩間先生がニューギニアで戦死したと知ったのは昭和19年内でした。長野師範を出て意気に燃えた門出が僅か4年足らずで終わってしまったのです。私は唯辛い気持ちで過ぎしました。小学生時代は光も輝きもどこにもなかったように思います。

せんでした。この時の出征兵士は春日喜平氏、石川正雄氏、瀬下久美の3名でした。

当日、町長さん、在郷軍人分会長さんより「元氣で頑張れ」というお詞をいただき、また神社からお神酒をいただきました。

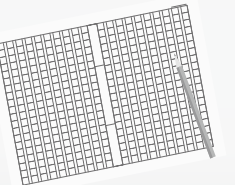
その後、兵士夫々より、春日さんは「妻子を残して戦場へ行くがよろしく頼む、そして頑張る」という悲壮な挨拶。石川・瀬下両名も「戦場に行くが、皆々様のご恩に報いるよう頑張る」と挨拶をし、各位の武運長久の万歳をし、青年学校の生徒の楽隊に送られ「勝ってくるぞと勇ましく誓って国を出たからにや」と出発しました。

春日喜平氏、石川正雄氏はそのまま屋代駅まで楽隊先頭で、各種団体、各関係者に送られて、午前10時、11時の汽車で金沢、宇都宮の各聯隊へと出発していききました。私は、午後の汽車にて三重に行くことになっていましたので、一旦自宅に帰り、当日家で陛下の玉音を聞きましたが、行かぬわけにはいかないだろうと、午後2時の汽車に乗るべく、屋代駅まで関係者に送られ、乗車切符を購入しホームに出て、皆に万歳をしてもらい汽車の来るのを待っていたところへ、屋代町役場兵事係

短詩型文学祭の作品募集

千曲市と坂城町で構成する更埴公民館運営協議会では、第29回更埴地区短詩型文学祭を開催します。応募要領と応募用紙は最寄りの公民館に用意してあります。入賞者には、表彰状と記念品を贈呈します。奮ってご投稿ください。

【募集期間】 7月1日（月）～8月31日（土）
【募集部門】 短歌・俳句・川柳・現代詩
【投稿料】 応募用紙1枚につき500円（小学生の部・中高校生の部は無料）
【投稿先】 各公民館



の中山さんがすっ飛んで、待てをかけられ兵役解除になりました。

何だかわからないまま家に帰りまして、重要書類は全部焼いてしまえ、との命令でしたので焼き捨てました。その時の気持ちは頭の中が真っ白。ただばうーとしていて、負けてくやしい、ということが先だったことを覚えています。戦争に負けた、これからどうなるのか、と思うとへんなものでした。

後で聞きますと、春日氏と石川氏も衛門まで行っただけで兵役解除となり帰宅したそうです。

なお、出征に当たり携行せよ、との命令書の内訳は次のようなもので、全部奉公袋の中に入っていました。収容品として、
軍隊手帳、勲章、記章、適任証書、軍隊に於ける特業教育証書、召集令状、貯金通帳、勅諭集、軍歌集、印、従軍記章、遺髪、遺爪、体力手帳、体力検定証、血液型鑑定証、武道有段証、教練検定合格証、幹部候補生合格証書、園芸化学終了証など、大切で重要なものでした。それらをすべて焼却しました。軍刀は別途保管しました。

戦争を再び繰り返さないことを祈って終わります。



きょうだい4人で 一番右が私です
(祖父のりんご園にて)

この4月から屋代公民館に着任し、勤務しています。公民館所蔵の古い写真を見ると、その中に私の大伯父である直久（祖母あひ子へ令和3年没）の兄の戦没の際の「町葬」の写真がありました。モノクロ写真の裏には「昭和14年12月8日 故陸軍歩兵

皆さんは、平和とは何だと思えますか。私は、自分や他の人がやりたいと思うことを、お互いに尊重しながら、自由にできることだと思えます。

平和について思うこと
戸倉上山田中学校2年
中村 麻誉

さらに、昨年の夏休みに、広島市の原爆ドームと平和記念資料館を訪れました。原爆ドームは、原爆が投下される前までは人で賑わっていた、とてもきれいな建物だったと知りました。しかし、投下後は、骨組みの鉄と瓦礫だけになり、影だけを残して一瞬で命を奪われた人もいました。また、平和記念資料館に展示してある資料や遺品を見て、私は、美しいものが失われて熱で曲がった鉄と瓦礫、

さらに、昨年の夏休みに、広島市の原爆ドームと平和記念資料館を訪れました。原爆ドームは、原爆が投下される前までは人で賑わっていた、とてもきれいな建物だったと知りました。しかし、投下後は、骨組みの鉄と瓦礫だけになり、影だけを残して一瞬で命を奪われた人もいました。また、平和記念資料館に展示してある資料や遺品を見て、私は、美しいものが失われて熱で曲がった鉄と瓦礫、

さらに、昨年の夏休みに、広島市の原爆ドームと平和記念資料館を訪れました。原爆ドームは、原爆が投下される前までは人で賑わっていた、とてもきれいな建物だったと知りました。しかし、投下後は、骨組みの鉄と瓦礫だけになり、影だけを残して一瞬で命を奪われた人もいました。また、平和記念資料館に展示してある資料や遺品を見て、私は、美しいものが失われて熱で曲がった鉄と瓦礫、



さらに、昨年の夏休みに、広島市の原爆ドームと平和記念資料館を訪れました。原爆ドームは、原爆が投下される前までは人で賑わっていた、とてもきれいな建物だったと知りました。しかし、投下後は、骨組みの鉄と瓦礫だけになり、影だけを残して一瞬で命を奪われた人もいました。また、平和記念資料館に展示してある資料や遺品を見て、私は、美しいものが失われて熱で曲がった鉄と瓦礫、

さらに、昨年の夏休みに、広島市の原爆ドームと平和記念資料館を訪れました。原爆ドームは、原爆が投下される前までは人で賑わっていた、とてもきれいな建物だったと知りました。しかし、投下後は、骨組みの鉄と瓦礫だけになり、影だけを残して一瞬で命を奪われた人もいました。また、平和記念資料館に展示してある資料や遺品を見て、私は、美しいものが失われて熱で曲がった鉄と瓦礫、

さらに、昨年の夏休みに、広島市の原爆ドームと平和記念資料館を訪れました。原爆ドームは、原爆が投下される前までは人で賑わっていた、とてもきれいな建物だったと知りました。しかし、投下後は、骨組みの鉄と瓦礫だけになり、影だけを残して一瞬で命を奪われた人もいました。また、平和記念資料館に展示してある資料や遺品を見て、私は、美しいものが失われて熱で曲がった鉄と瓦礫、

第31回 戸倉文化祭 会場 戸倉創造館

《開催日程》

- 作品展示の部 11月16日(土) 11:00~16:00
11月17日(日) 9:00~15:00
- 舞台芸能の部 11月17日(日) 9:30~15:00

問合せ先 戸倉創造館 ☎026-275-6700

更埴地区文化祭 中止のお知らせ

例年11月に開催している更埴地区文化祭は、会場である更埴文化会館が改修工事のため、今年度は中止とさせていただきます。

発表・作品展示を希望される皆様には大変申し訳ありません。ご理解いただきますようお願いいたします。

第53回 上山田文化祭

会場：上山田文化会館 ほか

11月3日(日)

展示発表 9:00 ~ 17:00
ふれあいのど自慢 15:00 ~ 17:30

11月4日(月)

展示発表 9:00 ~ 15:00
展覧会 9:00 ~ 16:00
囲碁空 10:00 ~ 14:00
舞 台 10:30 ~ 15:00

ふれあいのど自慢参加者募集

申込方法 公民館にある「申込用紙」に必要事項をご記入の上、期日までに提出してください。

申込先 上山田公民館（上山田文化会館内）

申込締切 9月15日（日）

※詳細は上山田公民館 ☎026-276-5842 へお問い合わせください。



町葬の全景 昭和14（1939）年

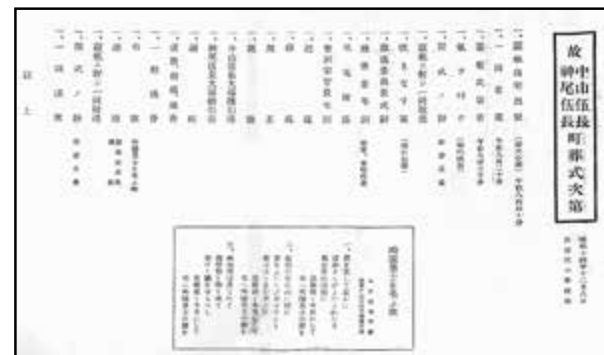


町葬後の家族写真
前列右から2番目が祖母
(当時喪服がなかったらしい)

町葬についての資料はあまり多くないようですが、昭和48年発行の『屋代百年のあゆ

町葬についての資料はあまり多くないようですが、昭和48年発行の『屋代百年のあゆ

町葬についての資料はあまり多くないようですが、昭和48年発行の『屋代百年のあゆ



町葬の式次第

最後に、大伯父の大きな墓石に刻まれている戦没の過程を紹介させていただきます。この文章を閉じたいと思います。

☆陸軍歩兵伍長勲八等
神尾直久之墓
忠誠院直堂義久居士
大正七年二月二日生 姿性
温厚誠実ニシテ孝心極メテ深
シ 昭和十三年一月十日現役
兵トシテ歩兵第五十聯隊二入
隊 爾来支那事変ニ従軍 北
支各地ニ転戦赫々タル武勲ヲ
奏ス 然ルニ惜哉同十四年八
月二十三日河南省沁陽縣懷慶
第十四師団第一野戦病院ニ於
テ戦病死ス 行年二十二
陸軍少将小田健作敬書

令和6年度 千曲市成人式のお知らせ

日時 令和7年1月12日（日） 受付 13:00 ~ 式典 13:30 ~

会場 上山田文化会館

成人式対象者 平成16年4月2日から平成17年4月1日の間に生まれた市内に住所がある人と、市内の小学校または中学校に在籍した人です。
*対象者には11月中旬に案内状をお送りします。

問い合わせ先 埴生公民館（成人式当番館）Tel 026-272-0055
または、最寄りの公民館まで。



もっと知りたい ふるさと

99 「更級里」と刻まれた諏訪社

「さらしな」の地名に古来だけだった皆さんの心が引かれてきたか調べ、約25年になります。江戸幕末生まれの佐良志奈神社（千曲市若宮）の宮司豊城直友さん（1815～1879）もそのことに関心を持ち、神社を発展させました。今は新しい祠に再建されましたが、分社の諏訪社の台座に直友さんが刻んだ文字「更級里」に、激動の幕末と明治を生きた直友さんの心持ちを感じたことがあります。



豊城直友さん肖像画

諏訪社は御柱祭が行われるので、氏子である千曲市の若宮、芝原区の人にとってはなじみがあります。山のあちこち、芝原両区からそれぞれ一本ずつ伐り出し、みんなで引き回し、諏訪社の両脇に建てます。小さな社ですが、祠の裏面の刻字を見ると、

と、直友さんが幕末の嘉永7（1854）年に再建したことが分かります。その台座には「更級里若宮村」と刻まれていました。

私は特に台座に刻まれた「更級里若宮村」の文字に興味を持ちました。「更級里」ではなく「更級郡」。いまでもその行政区名ではなく「〇〇の里」と書くのは一般的ですが、江戸時代です。「更級里」の方が、身近で親しみがあると考えたからではないでしょうか。

直友さんの時代にも御柱祭がありました。老若男女が集まる諏訪の神様の住まいだから、この文字を刻めば「さらしな」のイメージがより浸透し、定着するという願いがあったように思うのです。

ではなぜ、直友さんはそのようなことをしたのか。『戸倉町誌』によると、天保7（1836）年、直友さんが21歳のとき、近隣の八幡村（現千曲市）の八幡宮が延喜式内社の「武水別神社」と名乗るようになりました。「延喜式」とは、平安時代の各地の神社名を記した公文書の

ことで、延喜式内社とは朝廷に認められた由緒ある神社のことをいいます。

佐良志奈神社という名前も延喜式内社の一つですが、最初からそう名乗っていたわけではないようです。豊城家の古文書で「佐良志奈神社」と記すようになるのは1700年代半ばからで、以降はそれまでの「八幡宮」の呼び名と混在し、直友さんの生まれた1815年以降はすべて佐良志奈神社です。

直友さんが自分の神社の名前を強烈に意識するきっかけが、嘉永6（1853）年



2004年当時の諏訪社の台座「更級里若宮村」と刻まれていた



2004年の御柱祭 左下に豊城直友さんが再建した諏訪社が見える

開国を迫る米国のペリーの浦賀来航ではないかと思えます。その翌年に直友さんは諏訪社を「再建」しているのです。当時は日本の独自性を探求する国学が盛んだったので、直友さんも自分の神社の独自性について考え「更級里」と刻んだのではないのでしょうか。

そして直友さんは諏訪社再建から7年後の文久元（1861）年、佐良志奈神社の文字を刻んだ大きな社標を境内入り口に建立します（詳しくは館報32号もつと知りたいふるさと②「さらしな」地名遺産」を参照）。

直友さんは明治維新12年後の1879年に亡くなりま

した。直友さんは幕末から明治にかけて自分の仕える神社が都人らの大きな憧れであり続けた「更級」にあることを、地域内外にアピールする仕事に取り組んだのです。

残念ながら、直友さん再建の諏訪社の祠は風化が激しく、2005年、新しい祠に建て直されました。直友さんの祠は側面にブドウの実やリスの模様が彫られており、デザインや遊び心に富むもので、今も新祠の後ろに置かれています。いざれ境内の土になります。「更級里」が刻まれた台座は、現在はありません。

さらしな堂（芝原）
大谷 善邦

編集後記

8月になると、お盆や夏休みがあり、子どもたちにとっては大いに楽しみな時期を迎えます。私が子どもの頃は、親は畑仕事で忙しく、休みともなればよく手伝わされたことを思い出します。

その頃の子どもの私たちはというと、6年生を中心に近所の仲間や山へクワガタを捕りに行ったり、池で魚を取ったり、グラウンドで野球をしたりして、帰りが遅くなると親に叱られたことを思い出します。また、子ども心で、何が危

ないか、何をしてはいけないかは身体で覚えていきました。

近頃の子どもたちは、休みが家で、テレビゲームやスマホに夢中になっていると聞きます。それも時代の流れで仕方ないと思いますが、子どもたちで野外での楽しい遊びを考え、そして行動する、それを周りの大人が見守る、それが子どもの自立心・自主性・協調性・判断力などを育み、大人になってから、社会生活を送るときに役立つのではないのでしょうか。

（稲荷山 T）